日语注释文选

5

北京出版社

日语注释文选

第五辑

叶幼华等注释

*

北京出版社出版

（北京崇文门外东兴隆街51号）

新华书店北京发行所发行

北京印刷三厂印刷

*

787×1092毫米　32开本　3.375印张

1981年6月第1版　1981年6月第1次印刷

印数1—45,200

书号：9071·68　定价：0.28元

目録

一　敬語とその使い方……1
二　宇宙にいどむ……13
　附参考译文：征服宇宙
三　毎日の科学……33
四　昔の時計……46
五　体を守る皮ふ……52
　附参考译文：保护身体的皮肤
六、アルフレッド・ノーベル……62
　附参考译文：阿尔弗雷德·诺贝尔
七　[illegible]……72
八　農業……77
九　トマス・エジソン……85
　附参考译文：湯姆士·愛迪生
十　わたり鳥……96
　附参考译文：候鳥

敬語とその使い方①

来客をどうもてなそう②かということは、主婦にとって③頭の痛い問題である。お茶だけで済ませうか④、ケーキをつけたほうがいいかなどと迷う場合もあるに違いない⑤。時によって、場合によって、客によって、もてなし方が違うはずである⑥。

ひと口に客といっても、主人の上役、息子の友人、自分の母親、銀行・商社・保険会社の外交員など、いろいろの場合が考えられる⑦。それらの条件を頭に入れながら⑧、主婦は、どのようなもてなし方をしようかと選択するわけだが、そういう行為を、ここでは待遇とよぶことにする⑨。

客をもてなす法は⑩、飲み物や食べ物を出すことだけではない。その客に対して、どのような言葉づかい⑪をするかということも、待遇に含まれる⑫。この場合には、客と自分だけでなく、会話の中に出てくる人物にも注意をはらわなくてはならない。このように、話し相手や、話題となっている人物によって、言葉づかいを選択することを言語待遇と言い、そこで⑬選ばれた言葉づかいを待遇表現とよんでいる。

言葉待遇には、二つの方向がある。さきほどの客のもてなし方で例えるなら、食事まで出して厚くもてなす場合と、逆に客を立たせたまま⑭玄関で応対する場合がそれである。これを言語待遇で言えば、前者をプラスの方向、後者をマイナスの方向と言うことができる。このプラスの方向の表現を普通敬語と言っている。

ところで、日本語の敬語は、そこにみられる敬意の性質から三つに分類することができる。

その第一は、「ここから富士山がよく見えます。」「すばらしいながめですね。」「こんなよい風景を見たのは初めてでございます。」などに含まれている「ます」「です」「ございます」のたぐいである。これは、富士山や、ながめや、風景を敬って言っているのでないことはもちろんである。それでは、何に対して敬意を表しているのかと言えば、この言葉の向けられる相手⑮、すなわち、話し相手に敬意を表して、丁寧に言っているのである。これを「丁寧」の敬語と言う。この「丁寧」の敬語は、敬意を表す場合に限らず⑯、話にかどが立たない⑰ように、相手との間に一定の距離を置いて、言葉を和らげるのにも用いられる⑱。例えば、駅の出札口で、「京都まで往復一枚。いくらですか。」というようなのがそれである。ときには、親愛やい

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

たわりの気持ちを表すこともある。母親が幼児に、「よくかんで食べるんですよ⑲。」などというようなのがそれである。

その第二は、「ここが先生のお宅だ。」「先生はご熱心にお教えになる。」の「お宅」「ご熱心」「お教えになる」のたぐいである。これは、先生に対する敬意が基調となって、先生に所属する物や、先生の様子・動作などを敬って言う言い方である。いわば⑳、話題となるものを敬っているわけである。これを「尊敬」の敬語と言う。その敬意は、「お」「ご」「お……になる」によって表されている。「喜ばれる」「改められる」「お喜びなさる」「お許し下さる」「ご参加になる」「ご希望なさる」「ご協力下さる」「召しあがる」「いらっしゃる」「おっしゃる」など、いずれも「尊敬」の敬語に属する。

「尊敬」の敬語は、話し相手のいかんにかかわらず㉑、話題にのぼるものが尊敬すべき㉒人である場合に、使われるのであるが、たまたま、話し相手に対しても敬意を表すべき場合は、「尊敬」の敬語と、「丁寧」の敬語とが併用されることになる。例えば、先生を話し相手として、「ここが先生のお宅ですね。」と言ったとすると、「お宅」は、先生の家を「話題」として尊敬しているのであり、「です」は、先生を「話し相

手」として敬っているわけである。

その第三は、「わたしが先生に入場券を差し上げる。」「わたしが先生から入場券をいただく。」などの「差し上げる」「いただく」のたぐいである。これを「謙譲」の敬語と言う。これは、動作をする人を、その動作の対象となっている人よりも一段低いものとしての㉓表現である。「差し上げる」にしても「いただく」にしても㉔、動作をする「わたし」の立場は、動作の相手である「先生」よりも低められている。そうすることによって、動作の向けられる対象となる人を敬っているわけであるから、やはり敬語の一種である。

「申す」「参る」「致す」「拝見する」「拝借する」「承る」「お目にかかる」などが、その例である。また、「お荷物をお持ちしましょう。」「後ほど、お電話するか、お手紙を差し上げます。」「後ほどお届け致します。」などは、敬意を表すべき人の持ち物に関することや、また、そういう人の耳に入れ、手に取ってもらうものについての言い方であって、これも、一種の「謙譲」の敬語と考えることができる。

日本語の敬語は、このように復雑な決まりがあるから、その使い方には注意を必要とする。

使い方で、誤りやすい㉕一つは、自分の身内のことを、他人に向かって話す場合である。父母や兄や姉、勤め先の上役などは、自分より目上だが、その人たちのことを他人に話す場合には、敬語を使ってはならない㉖。例えば、「わたしのお父さんは今年四十五歳になります。」とは言わずに㉗、「わたしの父は今年四十五歳になります。」と言わなければならない㉘。また、「課長さんは、まだご出張からお帰りになりません。」とは言わずに、「課長は、まだ出張から帰りません。」と言うのが、正しい言葉づかいなのである。もっとも、勤め先の上役のことを話す場合でも、自分よりもその上役と近い関係にある人、例えば、上役の親しい友人などに話す場合は、敬語を使って、「課長さんは、まだご出張からお帰りになりません。」と言うほうがいい。なぜなら、その友人と課長との間柄は、自分と課長との間柄よりも近い関係にあるからである。だから、ひと口に、「上役のことを他人に言う場合」と言っても、相手の人が自分よりも、上役に近い関係にあるか否か㉙の判断を下してからでないと㉚、誤った言葉づかいになりかねない㉛。判断に苦しむ㉜ような場合は、敬語を使って言ったほうが無難である㉝。

誤りを犯しやすい第二の問題は、「尊敬」の敬語と「謙譲」の敬語との混同であ

る。例えば、「Aさんが食べる」と言うのを「Aさんが召しあがる」と言えば、Aさんを尊敬した言い方になるし、「わたしが食べる」と言うのを「わたしがいただく」と言えば、わたしがへりくだった言い方になる。この場合、尊敬と謙譲とを混同して、「Aさんがいただく」とか、「わたしが召しあがる」とか言ったらおかしい。子供や弟妹を連れて他家を訪問し、何か出された㉞とき、その子供や弟妹に、「じゃ、せっかくですから、いただきなさい。」というような場合は、自分の身内だから、謙譲でよいのだが、そういう場合を除けば、「あなたはもういただきましたか。」というように、自分以外の人に「謙譲」の敬語を用いる言い方は、普通しないものと考えておけば㉟、間違いない。ほかの例をあげると、「おっしゃる」と「申す」である。むろん㊱、「おっしゃる」が尊敬で、「申す」が謙譲なのであるが、「わたしがおっしゃった。」を笑う人でも、「あなたの申したことは……」とか、「あなたの申されたことは……」などと言って、平気でいる㊲。これはもちろん誤りで、「あなたの言われたことは……」とか、「あなたのおっしゃったことは……」が標準的で、正しい言葉づかいである。

第三には、何でも敬語を使えば、丁寧で上品だと考えているらしい㊳人が、ずいぶ

ん多いのではないか㊴という問題である。ひどいのに㊵なると、「ポチ㊶にご飯を差し上げました。」「きょうは富士山がよくお見えになります。」などと平気で使っている。何でも敬語を使うといえば、女の人は、「お塩、お野菜、おビール、おうどん、おテーブル、お寝巻き」など、やたらに「お」をつける傾向がある。それでは、どんな場合に使い、どんな場合に使わないほうがよいのか。「お」や「ご」を使ってよい㊷場合としては、少なくとも次の四つをあげることができる。

その一は、真に尊敬の気持ちを表す場合で、例えば、「先生のお望み」「先生のご講義」などである。

その二は、相手の物事を表す場合。「おぼうしはどれでしょうか。」と言えば、「あなたのぼうしは……」の意味になるし㊸、「ご意見をお聞かせ下さい。」と言えば、「あなたの意見を……」の意味になる。このように、「あなたの……」と言いかえることのできるような「お」や「ご」は、使ってさしつかえない㊹。

その三は、自分の物事であっても㊺、相手の人と関係のある物事であるために、「お」や「ご」を使う慣用のあるもの。例えば、「お手紙を差し上げます。」「ご遠慮致します。」のような場合。手紙を出したり、遠慮したりするのは自分だから、それ

に「お」や「ご」をつけるのは、ほんとうはおかしいわけだが、その手紙は相手の人に取ってもらうものであり、またその遠慮は、直接相手の人に向かってなされる㊻ことだから、「お」や「ご」をつけることによって、相手に対する敬意や丁重さ㊼を表すわけである。

その四として、「おはよう」「ご苦労さま」などのように、「お」や「ご」を取ってしまうと㊽、おかしなことになるものをあげることができる。

（日本語2による）

注　釋

① 「使い方」：动词连用形＋「方」，构成名词。如：「たべ方」（吃法）「書き方」（写法）。

② 「もてなそう」：五段活用动词「もてなす」的未然形＋推量助动词「う」构成，这里表示意志。如：「書こう」（写吧）。

③ 「主婦にとって」：意思是对主妇来说……，对主妇而言。

④ 「お茶だけで済まそう」：「だけ」是副助词，「光……」：「只……」之意。「で」，格助词，这里表示方法，手段。「お茶だけで済まそうか」（光用茶招待就算了呢？还是……）

⑤ 「あるにちがいない」：「肯定有……」之意。

⑥ 「もてなし方は違うはずである」：「はず」是形式体言。这里表示，根据一定的情况，作出判断或估计，相当于

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

汉语的「应该」「当然」「理应如此」等意。此句可译为：「招待方式当然不同。」

⑦「考えられる」：一段动词「考える」的未然形＋可能助动词「られる」构成的可能式。

⑧「頭に入れながら」：「ながら」，接续助词，接在动词连用形下，构成连用修饰语，表示两种动作同时进行，相当于汉语的「一边……一边……」「一面……一面……」等意。

⑨「よぶことにする」：动词连体形＋「ことにする」，表示人为的状态，有意识地那么做，相当于汉语的「决定……」等意。「そういう行為を、ここでは待遇とよぶことにする」（这里决定把这样的行为称做待遇。）

⑩「客をもてなす法」：「法」是招待方式、方法、礼法。

⑪「言葉づかい」：措词、说法。

⑫「待遇に含まれる」：五段动词「含む」的未然形＋被动助动词「れる」构成的被动式。中文意为：「包括在待遇之中。」

⑬「そこで」：指示代词「そこ」＋格助词「で」构成的词组。

⑭「客をたたせたまま」：「たたせた」是动词「立つ」的未然形＋使役助动词「せる」构成的使役式。「立つ」是自动词，构成使役态后，要求使役对象用「を」。请注意下面例句的助词用法：「客が玄関の前に立っている」（客人站在大门前边），「客を玄関の前に立たせている」（让客人站在大门前边）。「まま」是形式体言，表示原样、原封不动。「客をたたせたまま」（就让客人那么站着……）。

⑮「この言葉の向けられる相手」：「の」是格助词，这里可以用「が」代替。「向けられる」是动词「向ける」的被动式。这里可译为「听这些话的对方……」。

⑯「敬意を表す場合に限らず」：体言＋「に限らず」，在句中做连用修饰语，表示「不限于……」「不一定是……」等意。

⑰「話にかどが立たないように」：「かどが立つ」为「生硬」、「不圆滑」的意思。此句译为：「为了使話不显得生硬……」。

⑱「言葉を和らげるのにも用いられる」：「の」是形式体言，代替「こと」。「に」是格助词，表示目的。「のに」常在一起使用，可译为「为了」。「も」是副助词，中文意为「也」。「用いられる」是动词「用いる」的被动式。

⑲「よくかんでたべるんですよ」：口语形式，中文意思是「要好好嚼一嚼再吃。」比较委婉的命令态，常用于大人对孩子时。

⑳「いわば」：副词，「从某种意义上说」「说起来」「可以说是」等意。基本形式是「いわば……だ」。例：「この解决策はいわば、一时凌ぎのやり方に過ぎないのだ」（这个解决方法，可以说只不过是应付一时的做法而已。

㉑「話し相手のいかんにかかわらず」：「不管谈话对方如何」之意。句型，基本形式为「体言＋如何にかかわらず……」。

㉒「尊敬すべき人」：应该受到尊敬的人之意。「べき」是文语推量助动词「べし」的连体形，常出现在口语中，它接在动词的终止形下，与サ变动词相连接时，用「すべき」的形式，表示应当、应该、当然等意。例：「発表すべき时がきたら発表するよ」（到了该发表的时候会发表的）。

㉓「低いものとしての表现」：部分动词的连用形＋「ての」构成连体形，用来修饰体言。例如：「先生に对しての意见」（对老师的意见）；「これは私がよほど考えてのことだ」（这件事我考虑了许久）。

㉔「『差し上げる』にしても、『いただく』にしても」：句型，基本形式为体言「にしても」＋体言「にしても」，「不论是……还是……」；「也好……也好……」。

㉕「誤りやすい」：动词连用形下接「やすい」构成复合形容词，表示程度的容易、简单、好等意。例：「使いやすい」（好使）；「わかりやすい」（容易懂）。

㉖「使ってはならない」：动词连用形（五段动词发生音变）下接「てはならない」，表示禁止，相当于汉语的不可、不要、可别等意。例：「党の御恩を忘れてはならない」（不要忘记党的恩情）。

㉗「とは言わずに」：「ず」是文语否定助动词「ぬ」的连用形，接动词未然形下。「ず」后面往往添加助词「に」，修饰下面的用言。

㉘「と言わなければならない」：动词未然形下接「なければならない」构成惯用句型，表示应该、需要、必须等意。

㉙「上役に近い関係にあるか否か」：「上役に」的「に」是格助词，表示比较的基准。例：「ここは海に近いが山には遠い」（这里离海近，可是离山远）。「関係にある」的「に」也是格助词，表示抽象的场所、状态、程度，相当于处在、处于、在、有等的意思。例：「私の英语は彼とだいたい同じ程度にある」（我的英文程度大体和他相同）。「あるか否か」是动词终止形＋「か否か」，表示是……还是不……之意。这里的意思是如果不先把对方和上司的关系是比自己近还是远这一点弄清，就难免犯语言上的错误。

㉚「判断を下してからでないと」：动词连用形下接「てから」表示「在……之后」之意。「でないと」是判断助动词「だ」的否定的假定，与「でなければ」大体相同，「如果不是……」的意思。

㉛「なりかねない」：动词连用形＋「かねる」，表示「难于……」「不可能」「不好意思」等意。例：「言いかねる」（不好说）。「説明しかねる」（难以说明）。「誤った言葉づかいになりかねない」（难免犯运用语言的错误）。

㉜「判断に苦しむ」：「に」是格助词。这里表示动作、作用的原因、动机。中文意思是难于判断。

㉝「敬語を使って言ったほうが無難である」：「無難」是名词、形容动词，中文意是稳妥、无可指责等意。这句话可译为「还是以使用敬语为宜」。

㉞「何か出されたとき」：「か」是副助词，接在疑问词、不定词的下面，表示时间、地点、数量、事物的不定。例：「だれか来たらしい」（好象谁来了）；「なにか買おう」（买点什么吧）；「だされた」是动词「だす」的未然形「出せ」接被动助动词「られる」发生约音变而构成的。「何か出されたとき」可译为「受到什么招待时……」。

㉟「考えておけば」：「考えておく」的假定形。动词的连用形下接「ておく」表示预先作好准备或动作之后暂放下来的状态。此处表示事先的想法、考虑。

㊱「むろん」：副词，「当然」「不用说」之意。

㊲「平気でいる」：部分名词、形容动词的词干＋「でいる」表示某种状态的持续。但是构成这种形式的词例不多，

常用的有「つもり」「預定」「獨身」「元気」「気持」「决意」等。

㊳「考えているらしい」：「らしい」是推量助动词，根据客观情况作某种推测而予以断定。相当于汉语的「象……」「好象……」「似乎……」的意思。

㊴「ずいぶん多いのではないか」：可译为不是有很多吗!!

㊵「ひどいのになると」：「の」是形式体言，这里指的是不管对什么，只要使用敬语，就认为显得是谦恭、文雅的人。

㊶「ポチ」：对狗的爱称。

㊷「使ってよい」：动词连用形＋「てよい」表示对该项动作的许可，相当于「可以」的意思。「使ってよい」（可以使）。

㊸「意味になるし」：「し」是接续助词，接用言终止形后面，对等地连接前后的句子，表示列举、并列或因果关系。这里是表示并列。与下面的「ご意见を……の意味になる」成并列关系。

㊹「使ってさしつかえない」：使用也无妨、使用也没关系的意思。

㊺「自分の物事であっても」：可译为即便是（即使是）自己的事。

㊻「その遠慮は、直接相手の人に向かってなされることだから」：中文意是「因为是直接向对方表示客气……」。「なされる」是动词「なす」（做、进行）的被动式。

㊼「丁重さ」：形容动词的词干或形容词去掉词尾「い」下接「さ」构成名词，表示程度。例：「高い」→「高さ」（高度）；「寒い」→「寒さ」（冷度），「静かだ」→「静かさ」（安静程度）。

㊽「『お』や『ご』を取ってしまうと」：动词连用形＋「てしまう」表示完了、不能恢复原状或做了不应该做的事等意。例：「彼は秘密文書を人に见せてしまった」（他把秘密文件给人看了）（不应给人看的文件却给人看了）之意。「『お』や『ご』を取ってしまうと、おかしなことになる」中如果去掉「お」和「ご」（有本来不应去掉之意）就会变得别扭不自然。

张永旺注释

宅宙にいどむ①

(一)

「見えた・見えた・月のように半分欠けた地球の姿だ。はて、いったいどこが映っている②んだろう。」③

アメリカのテキサス州ヒューストンにあるコントロール・センターと、アメリカの宇宙船アポロ8号とを結ぶ宇宙通信が始まった。

一九六八年十二月二十三日、アメリカ時間の午後三時、アメリカじゅうの、いや④、全世界のテレビが、宇宙空間の中にくっきり⑤とうかんでいる地球の姿を映し出していた。

アポロ8号のボーマン船長の声がはいる⑥。

「では、説明しよう。今、見えているのは、地球の西半球だ。南極大陸から南アメリカ、それに、北アメリカ南部が、太陽の光に照らされて⑦かがやいている。ハワイ

諸島のあたりから西は、夜にはいって⑧いて見えない。わかるかね。まっ白⑨に見えているのは雲だよ。」

「うん、わかった。西半球ということはどうやら⑩わかったが、海と陸の区別がよくわからないな⑪。」⑫

「宅宙船からは、実によくわかるんだがな⑬。海は青むらさき色に、陸は茶色に見える。南極大陸をおおっている氷は、まっ白に光ってまぶしいくらいだ⑭。」⑮

今、地球を見ているのは、宇宙船に乗り組んだ、ボーマン・ラベル・アンダース、三人の宇宙飛行士である。アポロ8号は、この二日前、十二月二十一日の午前七時五十一分、フロリダ州のケープ・ケネディー宇宙センターから、サターン5型ロケットで打ち上げられ⑯、月を目ざして飛行しているのだ。

十二月二十四日午前四時四十九分、地球から発射されて六十九時間たった時、

「では⑰、みなさん、いろいろとご協力ありがとう。月の反対側に出たら⑱、またお話ししましょう。」

というあいさつを残して、アポロ8号は月の裏側に回りこんで行ってしまった⑲。月の裏側に行ってしまうと、地上との無線連らくはとれなくなり、アポロ8号は、

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com